

平成26年度助成状況

●平成26年度医学研究助成金

受賞者	助成金額
泉 裕一郎 熊本大学大学院生命科学研究部 腎臓内科学分野 研究員	150,000円
井上 泰輝 熊本大学大学院医学教育部 博士課程2年 神経内科学分野	150,000円
梶原 隆太郎 熊本大学発生病学研究所 研究員 幹細胞誘導分野	150,000円
境田 奈津子 社会医療法人社団高野会 高野病院 管理栄養士	150,000円

●平成26年度外国人留学生奨学金

受賞者	助成金額
趙 加斌 熊本大学大学院医学教育部 博士課程1年(中国) (分子遺伝学分野)	150,000円
王 馳 熊本大学大学院医学教育部 修士課程2年(中国) (知覚生理学分野)	150,000円
黄 冠男 熊本大学大学院医学教育部 博士課程2年(中国) (神経内科学分野)	150,000円
朱 順順 熊本大学大学院医学教育部 研究生(中国) (分子遺伝学分野)	150,000円

●平成26年度医学・生物科学関係の学会・シンポジウム助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
第30回熊本医学・生物科学国際シンポジウム	9月4日～5日	熊本大学発生病学研究所 腎臓発生分野 西中村隆一教授	700,000円

●平成26年度医学研究会・研修会助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
熊本大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成	6月8日～3月31日	熊本大学医学部附属病院 総合臨床研修センター長 山下康行教授	200,000円
第14回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ	9月21日	熊本大学医学部長 竹屋元裕	80,000円
蕃滋祭(薬学展)	11月3日～4日	実行委員長 熊本大学薬学部3年 今村一久	50,000円

平成二十六年熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成報告

が、平成二十六年十月二十日に医学教育図書棟四階ゼミ室において行われ、西理事長から医学研究助成金四名、外国人留学生奨学金四名に対して、各十五万円が受賞者ひとり一人に手渡されました。また、それぞれの受賞者の代表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター長 向山 政志  
平素より熊本大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラムの初期臨床研修医の指導・育成にご協力頂き、お世話になっております。

平成二十六年度は、十一年目となった臨床研修制度のもとで、当院プログラムに新研修医五四名を迎えました。一年次、二年次合わせると総数一〇二名(医科九四名・一年次五四名、二年次四〇名、歯科八名)となります。多数の研修医が無事に二十六年度の研修を進めることができたのも多くの関連診療科、施設の先生方のご指導・ご助力の賜であり、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、この新臨床研修制度が始まり、早いものでまる十年を越えました。色々な意見がありながらも、現在の医療社会で一つの確立されたシステムとなったことは時間的経過からも否めない事実です。平成二十六年度はそれ以前の五年間の状況を踏まえた上で、厚生労働省が見直し案を作成、二十七年年度から開始へ、という制度上大きな節目の年でした。昨年末に発表された見直し案は研修の質の向上

や地域医療の確保ということが課題とされ、施設基準の再設定、キャリア支援の多様化に加え、定員数等に関して地域行政の役割を大きくする内容が含まれていました。

一方、到達目標や評価等の研修内容については、ほぼ現行維持の形となり、期間や必修項目については大きな変更は伴わないものでした。今の研修制度が受け入れられているという判断とも思われますが、ご存じのように決して課題が少ないわけではありません。医学知識や標準手技が十年前と大きく変わってきている分野もあり、また、超高齢化、少子化、包括医療等の社会と連動する医療情勢の変化もあります。こうした点を含めると、例えば入院を基本とする疾患の経験という課題も検討する必要があるかもしれません。経験目標や評価に関する見直しについては五年後の平成三十二年度の見直しが示唆されています。今より五年後、つまり十五年経過した研修基準をそのまま適用することが難しくなる点を予測しているとも考えられます。

さて、五年後という、新研修制度で育った医師達かなりのマンパワーを持つ時代となっていることでしょう。すでに、熊本大病院群の初期研修を経て巣立った医師達は、平成二十六年年度末で五〇名を越えており、多くは県内医療に携わり、様々な分野で力を発揮していることと思えます。さらに上級医に進む過程の一つとして、当センターでは二十六年年度に厚生労働省から認可を受けた研修指導医養成のための Faculty Development である「第十四回臨床研修指導医研修ワークショップ」を開催しておりますが、近年では初期研修制度を経験した若手医師の参加が増えてきています。また、学内

の診療科の中にはかつての初期研修医が医局長、教官へとステップを進めているところもあり、彼らは旧制度での研修を知らない世代です。こうした背景を考えると、五年後の制度見直しというのは次の成熟期にむけた大きな内容の改正に踏み込める時期かもしれません。

研修制度のみならず、多くの医療に関する改革が行われつつある我が国の状況が続いています。総合臨床研修センターでは関連施設の皆様方とともに臨床研修を通じて、医学・医療の発展と地域医療に貢献できる次世代の医師育成と医師確保に一翼を担う所存です。当センターのプログラム運営に対してお協力に心より感謝申し上げますとともに、公益財団法人肥後医育振興会のご支援、ご指導の程を今後ともよろしくお願い申し上げます。

第三十回熊本医学・生物科学国際シンポジウム報告

熊本大学発生病学研究所腎臓発生分野教授 西中村 隆一  
第三十回熊本医学・生物科学国際シンポジウムを熊本市医師会館にて開催しました。肥後医育振興会からもご支援を頂き、この場をお借りして御礼申し上げます。

今回は「幹細胞制御と臓器再建」というテーマのもとに、発生・再生医学研究に携わる国内五拠点(熊本大学発生病学研究所、理化学研究所多細胞システム形成研究センター、京都大学再生医学研究所、京都大学iPS細胞研究所、慶応大学医学部)の研究者が定期的に情報交換するシンポジウム「KEY Forum」、発生